

2025年度 最終月の 園だよりとなりました。

この1年、つたない文章にもかかわらず お読みくださり ありがとうございます。今年度も 神様の御手の中で、子ども達ひとりひとりの 小さな魂と身体が支えられ、豊かに守られて、保護者の皆様と共にその成長の喜びを分かち合いつつ歩むことができましたこと心からの感謝の想いでいっぱいです。改めまして御礼申し上げます。

毎年5月から、幼児クラスを中心として毎週金曜日に行っている全体礼拝ですが、今年2月より、聖書のお話を語る担当を私以外の先生達もローテーションに加わり、週2回、乳児クラスもみんな一緒に全園児と職員での礼拝としてまもってきました。子ども達は 聖書のおはなしが だいすきです！ そのおはなしを 最も身近な先生が語ってくれるのですから、その喜びは私が話す時の何倍にもなっていたようでした。ただ 聖書の世界を表現するのは なかなか難しく、独特な雰囲気や時代背景などを子どもがイメージしやすく伝えるため試行錯誤を繰り返し、先生達は苦勞しました。子ども達は、自分の担任の先生が 前に出てお話をすることが とても嬉しい様子で、「なんか ときどきするね」「がんばってね！」「〇〇せんせいならできるね」と自分のことのように心配しながら 熱い声援や拍手を送って楽しみにしてきました。そして先生が語る言葉を真剣に受け止め、それぞれのメッセージに夢中で聴き入り、おはなしを通して感じる、神様の御心や イエスさまの愛に 想いを馳せていました。毎回 子ども達のその姿から みんなの心の純粋さが伝わってきて、語り手自身にも不思議な力となり、人知を超える神様の御言葉をまっすぐに語ることができました。また語ることは 聴く者よりも先に、語る者自らの耳がまず その言葉を聴くことです。私達語り手も 子どもと同じメッセージの聴き手であると気づかされた先生達です。語ること・聴くことの必要性、人にとっての大きな意味を改めて思わされています。旧約から新約の 永い時代に亘って記されている聖書の中の出来事ひとつひとつが、子ども達 また 私達の心の中で、それぞれの捉え方 感じ方を通して、深く刻まれ確かな礎と成っていることを、1年を終えようとしている今、しみじみと感じます。“人として”大切な言葉に耳を傾けること、頭で 心で 想像すること、語ること…「つのぶえの子ども達は、その力が素晴らしい」とよく言われることに感謝ですがこれからも“人としての在り方・心”を育むことを何よりも大切に歩んで参ります

まもなく つのぶえを巣立っていく10名の愛すべき子ども達ひとりひとりの心に、どんな時もイエスさまが そばにいてくださることを勇気にして、ここで育まれた愛する心を信じて 輝く笑顔で大空へ！ 神様の祝福をお祈りしています（石田 記）

「わたしは、世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。（マタイ 28:20）」